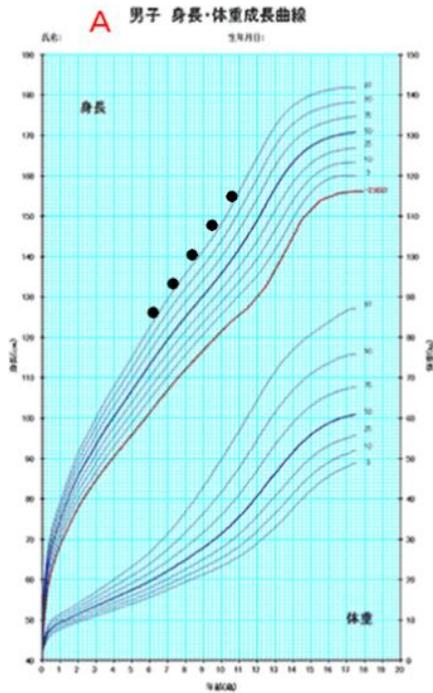


成長曲線と肥満曲線に基づく児童生徒の健康管理の流れ

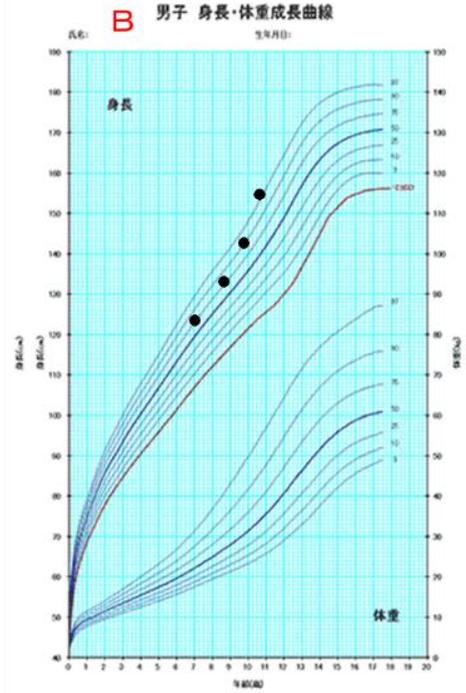
「子どもの健康管理」プログラムによる①～⑨群の一覧作成、身長・体重曲線と肥満曲線グラフ作成、健康管理データの作成。
自動検索された①～⑨群について、事後措置対応について、記載しますので、ご活用下さい。

①群：身長の最新値が97パーセンタイル以上（統計学的高身長）

A：成長曲線に沿っていれば受診不要

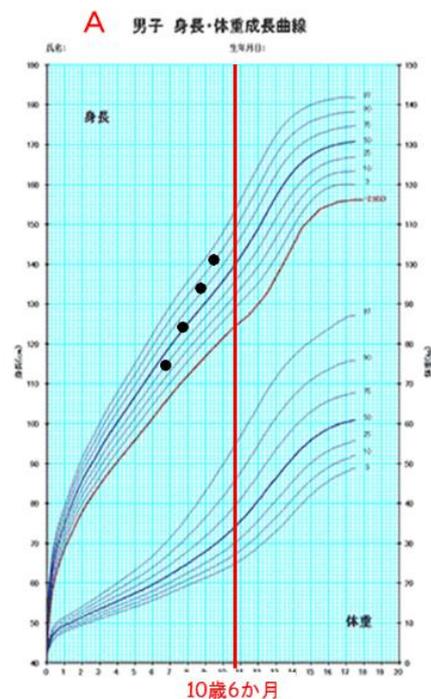
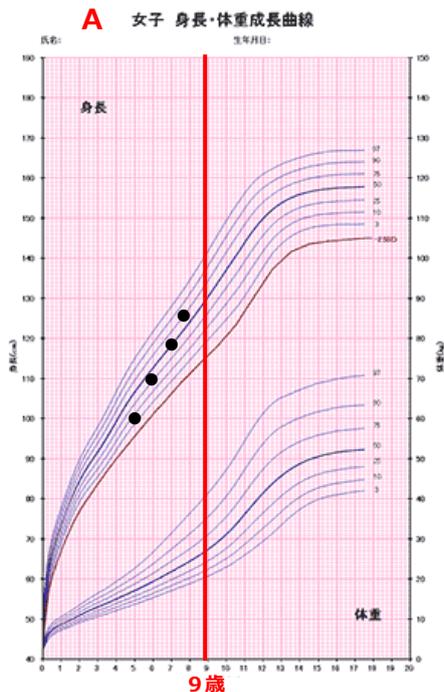


B：②群（成長率増加）も認めるときは精査医療機関受診

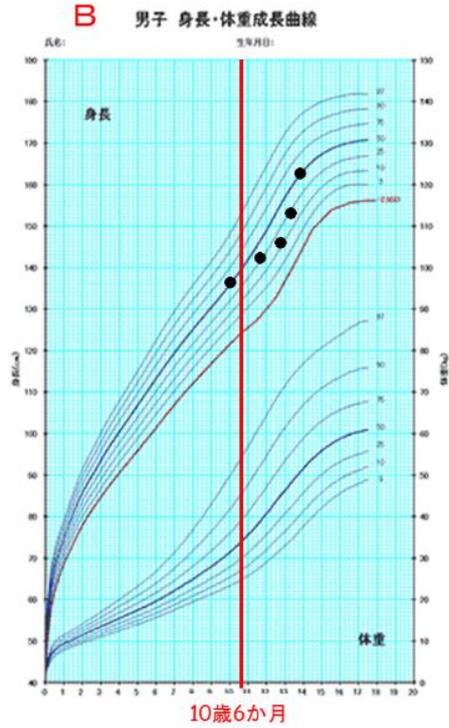
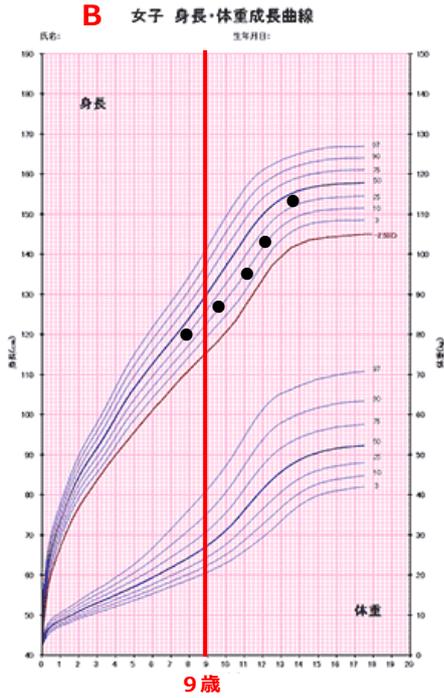


②群：過去の身長Zスコアの最小値に比べて最新値が1 Zスコア以上大きい（身長の伸びが異常に大きい）

A：女子で9歳未満、男子で10歳6か月未満（平均的思春期開始年齢マイナス1歳）であれば精査医療機関受診



B : 上記以降であれば思春期が遅かった可能性が高いので受診不要



③群 : 身長の最新値が3パーセンタイル以下である (統計学的低身長)

⑤群 : 身長の最新値が-2.5 Zスコア以下である (極端な低身長)

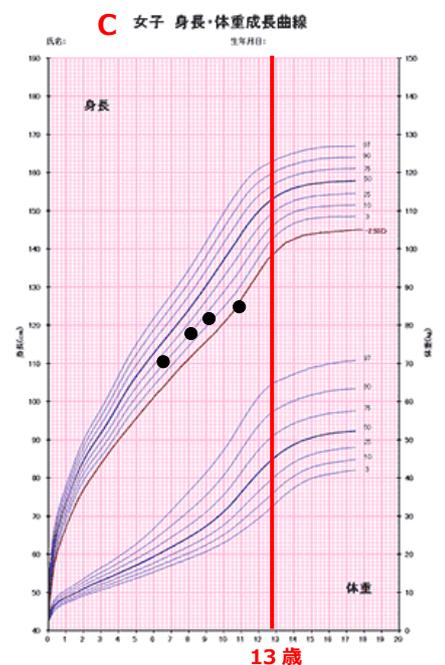
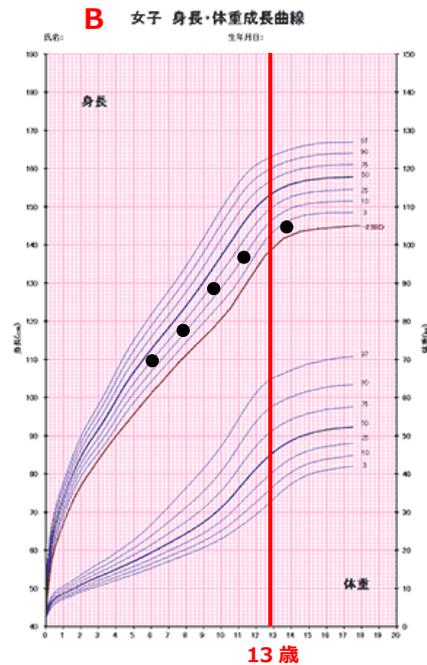
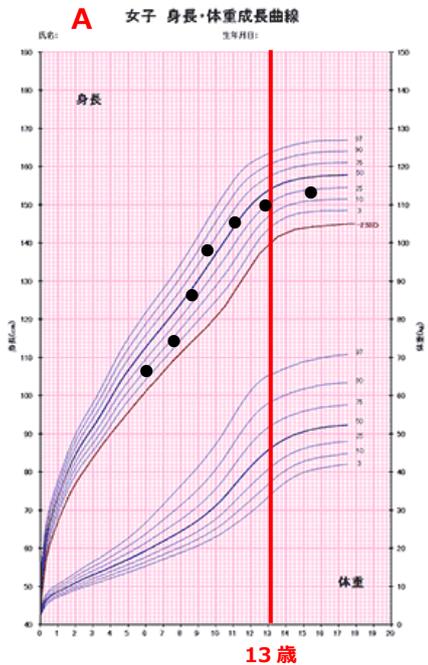
④群 : 過去の身長Zスコアの最大値に比べて最新値が1 Zスコア以上小さい (身長の伸びが異常に小さい)

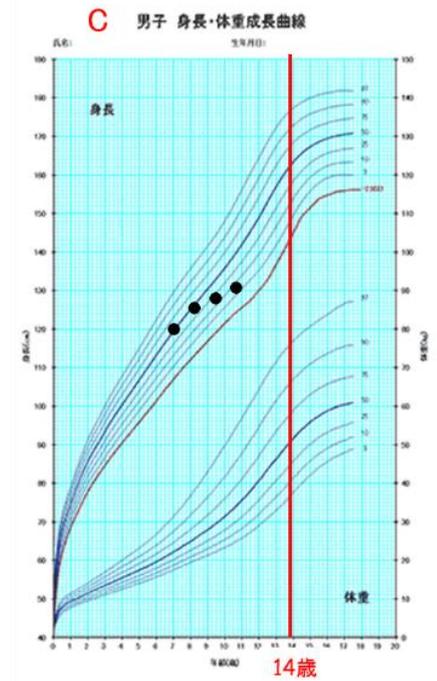
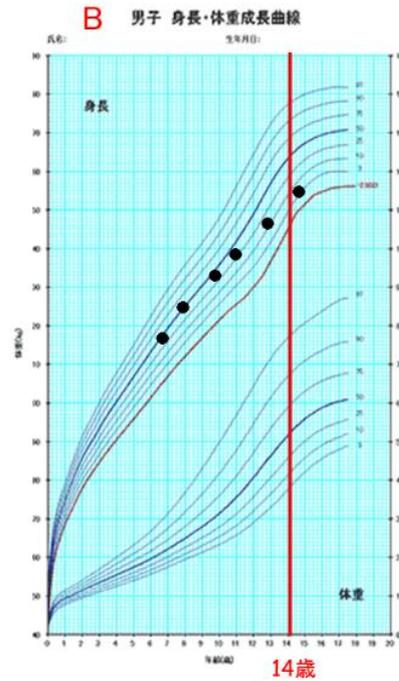
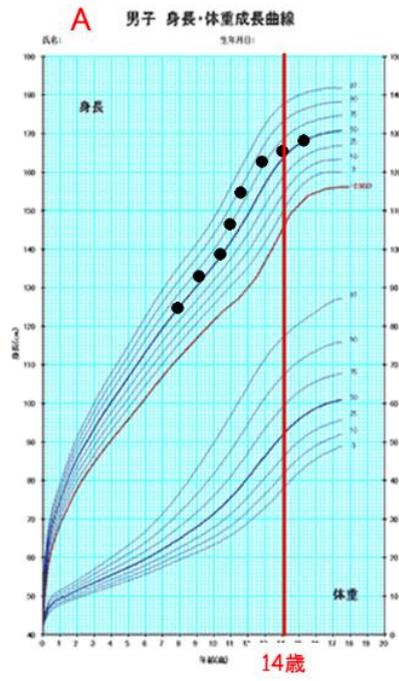
精査医療機関受診

A : 成長率が低下しているがその前にスパートが見られる。男児で声変わり・女児で月経がきていれば正常

B : これまで平均であったのがグラフから外れてきている。身長の伸びは落ちていないので思春期が始まっていない可能性が高く経過観察。ただし男子で14歳、女子で13歳以降 (遅発の基準) でも伸びが変わらなければ思春期遅発の可能性があるので精査医療機関受診

C : 思春期の時期に関係なく成長率が落ちていたので精査医療機関受診





⑥群 (肥満)

肥満度の最新値が 20%以上である

軽度肥満の肥満度 20-29%は注意喚起
30%以上の中等度・高度肥満はかかりつけ医受診

⑦群 (進行性肥満)

過去の肥満度最小値に比べて肥満度の最新値が 20%以上大きい

かかりつけ医受診

⑧群 (やせ)

肥満度の最新値が-20%以下である

かかりつけ医受診

⑨群 (進行性やせ)

過去の肥満度の最大値に比べて肥満度の最新値が 20%以上小さい

かかりつけ医受診

※⑥から⑨群に該当し、①から⑤群にも該当する場合は、精査医療機関を受診